## 令和5年度 各部各学年学校評価項目に関する評価結果

## 令和5年度 重点目標

- 1 STEAM教育の推進と総合的な探究の時間の充実
- 2 ICTの活用と主体的で個別最適な学習の推進
- 3 自己指導能力の育成を目指した教育活動の充実
- 4 well-beingに基づく学校づくりの推進

**今和5年度 学校評価項目** 達成度:A=達成できた B=概ね達成できた C=あまり達成できていない D=達成できなかった

		取組	達成状況・次年度への課題	達成度	評議員、PTAからの意見 〈 〉内は学校側の回答	
	教 務 部	<学校評価設定項目> ○1 C T化への対応をより進め業務の効率 化を図る。…重点項目 2 ・ 4 より	○職員会議資料のペーパーレス化や朝の打ち合わせにおける校務支援システムの活用、オンライン採点システムの導入など様々な点で 効率化を図ることができた。今後は教務支援システム「賢者」をよ り活用し、担任業務の負担軽減につながる取り組みをしていきた い。	В	○自己評価における達成度・段階 評価の基準を明確にする必要があるのではないではないでは、 値目標として定めると言語では、 を通りである。 (個人の教員評価では記述を表する。	
		<その他の課題・取組>			価基準を明確にするともに、自己 評価の後、管理職との面談を経て 評価を決定している。組織の部署 の評価についても今後検討してい きたい。〉	
	情報部	<b>&lt;学校評価設定項目&gt;</b> ○ I C T の活用と主体的で個別最適な学習の推進。…重点項目 2 より	○タブレットは迅速に整備して、使えるような環境は整えた。また、故障などにも速やかに対応した。しかし、充電不足などで活用できない場面も目立った。スタディサブリについては、まだ活用が不十分であるが、生徒が活用したいと思うような環境作りを学習指導部と連携して模索していく必要がある。また、文科省は一人一台端末を「文房具のように」使うとしているが、課題のダウンロード・提出などで苦労している生徒も多く、引き続き情報部からの協力が必要である。	В	○家庭学習の習慣化について学校 評価アンケートでは、肯定的な意 見が教員35%に対し、生徒・保護 者は50%と乖離がある。原因は か。〈0、段階習や課外学習の廃 止・縮小で、以前と比べて生徒の 学習時間は減少しているが、1日 1時間でも毎日学習していると、 ************************************	
		<その他の課題・取組>	○タブレットの卒業生から新入生への引継ぎでは、QRコードリーダトールやプログラミング環境の構築など、単に端末を引き継ぐだけてを整えることができた。また、生徒の個人情報の校務支援システムへど、情報管理面では、まだ途上ではあるが、取り組むことができた。	なく、環境	る。〉	
	学習指導部	<b>&lt;学校評価設定項目&gt;</b> ○スタディサプリの活用による学習時間増 と多様な習熟度への対応。…重点項目2より	○今年度からスタディサブリを導入し、各教科・学年ごとに課題配信や小テスト等で活用した。強調週間やキャンペーンなど、教科の特性、また生徒の目標に合わせて実施したが、家庭学習時間増とはいかなかった。活用については、長期的・計画的な取り組みが重要であり、今後検討していく必要がある。	В	見の割合の乖離が大きいが何が原 因か。個人的ではあるが、本校生 の服装はよい状態でああり、社会 人としては許容範囲と感じる。 〈生徒と教員で正しい服装の解釈	
		<その他の課題・取組>	○定期試験や実力テスト等での欠席者が目立った。実力テストの評価いて検討する必要がある。 ○「主体的に取り組む態度」の評価について、各教科で大きな差がある。 ○長欠者が増えてきたため、診断書等のない欠課時数超過の補充につ見直して整理し、意識を統一して指導を行う必要がある。	り整理する		
部	地域連携・	<b>&lt;学校評価設定項目&gt;</b> ○計画的な「総合的な探究の時間」プログラムの実施。…重点項目1より ○外部機関との連携実施。…重点項目1より	○年間計画からは状況に合わせてその都度変更をしたが、概ね計画 的な実施となった。外部連携は2学年で実施し約20カ所の事業所等 にインタビュー等でお世話になった。今年度の取組や他校の事例な どを参考に本校にあったプログラムを作成すること、今年度も含め 礼状や成果報告を行い継続した協力関係を築くことが課題となっ た。	В	えている。最低限、他人が不快に 感じないよう理解を図っている。 時代の変化とともに校則も見直す 必要はあるが、決められた校則は しっかり守ってほしい。	
	探究部	<その他の課題・取組>	○係の先生方を中心に各学年で計画・調整し実施できたが、事前準備 担が大きく、学年内での情報共有や役割分担等をスムーズに行える工 ある。	等で係の負法が必要で	○進学校として国公立大学進学者 の人数など数値目標はあるか。進 学校として明確に何を目指してい るのか。〈生徒の多様な進路希望 により、国公立大学者数だけを目	
	生徒指導部	<b>◇学校評価設定項目&gt;</b> ○自己指導能力の育成と「多様性の尊重」 についての理解。…重点項目3・4より	○生徒の学校評価アンケート結果から生徒自身は学校生活の服装に 対して正しくできているという肯定的な意見が多数であったが、実 際はそうではないところが多く見受けられる。その差をどう埋めて いくかが今後の課題である。	В	になり、 はなり、 はなり、 各自の希望するは 路目標の実現を目指している。中 学校訪問では地元の宇都宮大学を 目指せる学校、将来地元に戻り活	
		<その他の課題・取組>	○「多様性の尊重」の観点から、今後の頭髪指導の在り方について見ある。	直す必要が	躍できる人材を育てる学校とし アピールしている。〉	
	特別活動部	〈学校評価設定項目〉 ○生徒の自主的な諸活動を活性化させ、生 徒がwell-beingを実感するための支援体制 の実現。…重点目標3,4より	○コロナ感染症の5類への移行に伴い、学校生活も徐々に平常の状態に近づきつつある。それに伴い、学校祭を一般公開を行うなど、昨年度より一段規制を緩めて行うことができた。また、乗馬とカヌーで日本一に輝いたことは本校のPRに大いに役立った。	В		
		<その他の課題・取組>	○学校祭の企画・運営を特活部の一係に担当させることが適切であろ 分掌を統括するような教員・生徒の学校祭実行委員会等の組織があれ 等が明確になると思われる。今後、さらにコロナ以前の規模に戻るこ るとそのような組織が必要と思われる。	ば役割分担		

	健康	きる環境作りを実現する。…重点目標3・ 4より		В
	指 導 部	<その他の課題・取組>	<ul><li>○上記のことから、学校美化で行き届いていない箇所の把握と改善に システムの構築が必要だ。</li><li>○今年度の施設における重大事故は発生していないが、更に安全点検 せる。</li></ul>	
	進路指導部	点項目3より ○探察活動な通して、白八の原本に関して	○探究活動がメインになり、進路に関する内容が薄まったという意見もあるが、社会を知り自分の興味関心がある分野を掘り下げることによって高校の出口としての進路ではなく、もっと先の進路を見据える機会になったと思える。 ○記録を残させるといった点に関してはまだまだ改善と工夫が必要である。	
		<その他の課題・取組>	○第3回の進路希望調査はほかの調査とも重複するので無くしてもい ○共通テスト前指導は1回でいいのでは。 ○3学年の放課後課外、 持ち方を改善すべき。 ○進路資料をもっと活用する工夫を。 もっと課題解消につなげられる形に。改善策を施して、その成果につ するようにしていくと良いのでは。	夏季課外の 模試分析を
	涉外	<学校評価設定項目> ○特別活動の支援とPTA活動の活性化。 …重点項目4より	○長距離走大会への保護者参加が復活したり、親善レクリエーション大会 (ボウリング) が実施できたりと活性化がある程度できた。	В
	部	<その他の課題・取組>	○係間の報告・連絡・相談を一層密にして、PTA・同窓会活動の充実ない。 ○百周年に向けて着実に取り組む。	を図りた
	1 学 年	〈学校評価設定項目〉 ○学習習慣の確立と自己調整力の涵養。… 重点項目2・3より ○高校生活の充実に向けての基盤の獲得。 …重点項目4より	○学習習慣を確立させることは難しく、漫然と学校生活を送っている生徒が多かったと判断する。環境への適応にとどまっており「自己」で「調整」する力を身につけるまでには至っていない。○学習以外で主体的に取り組む活動を見つけ、学業との両立に向けて確固たるものを手に入れている者はまだまだ少ない。	
	+	<その他の課題・取組>	○多様な生徒への対応で追われてしまった。これまではなかったであるもしくはあり得るということが増えてきている。生徒と向き合うに工夫が必要だろう。	
老 王	2 学 年	体的な学びの確立。…重点項目2より	○活用促進のため、強調習慣等の取り組みを行うことができた。積極的に活用した生徒もいたが、多くの生徒の主体的な学びに向かわせることは難しかった。 ○1限前に不調を訴え、早退する生徒がいた。日頃の体調管理を指導したい。心の問題を抱える生徒もいたが、担任の先生方を中心に丁寧に対応していただいた。	В
		<その他の課題・取組>	<ul><li>○実力テストや外部模試を欠席してしまう生徒が多かった。学びに向学年全体でよりよくしていきたい。</li></ul>	]かう姿勢を
	3 学 年	〈学校評価設定項目〉 ○進路実現に向けた面談指導の充実。…重 点目標2・3より ○学習環境の整備と清掃指導の徹底。…重 点目標3・4より	○面談指導について:7月以降、平日課外のため教室を使用できず、面談場所を探すのに苦労した。 ○学習環境の整備:廊下に私物を放置させない、前方の黒板に掲示物を貼らない、配付済みのプリント等を教卓付近に放置しない、学校行事関係の道具や作ったものを長々と残し続けないなど、クラス間で意識の差がないように担任間の共通認識と意識の高揚が必要。	R
	·	<その他の課題・取組>	○各種課外:参加調査が先行していた。扱う内容やねらいを担当者が 的意識や必要感をもって選択させたい。指導の常套句になっている「 推薦の可否」は分けて考えたい。	